

幼保小連携モデル園・校事業に取り組みました(令和3年度～令和5年度)

目的

札幌市における幼保小の連携・接続の推進については、教育委員会が主催する区幼保小連携推進協議会における組織的な取組と、地域のつながりの中で各園・校が工夫して実践する様々な取組が行われてきました。

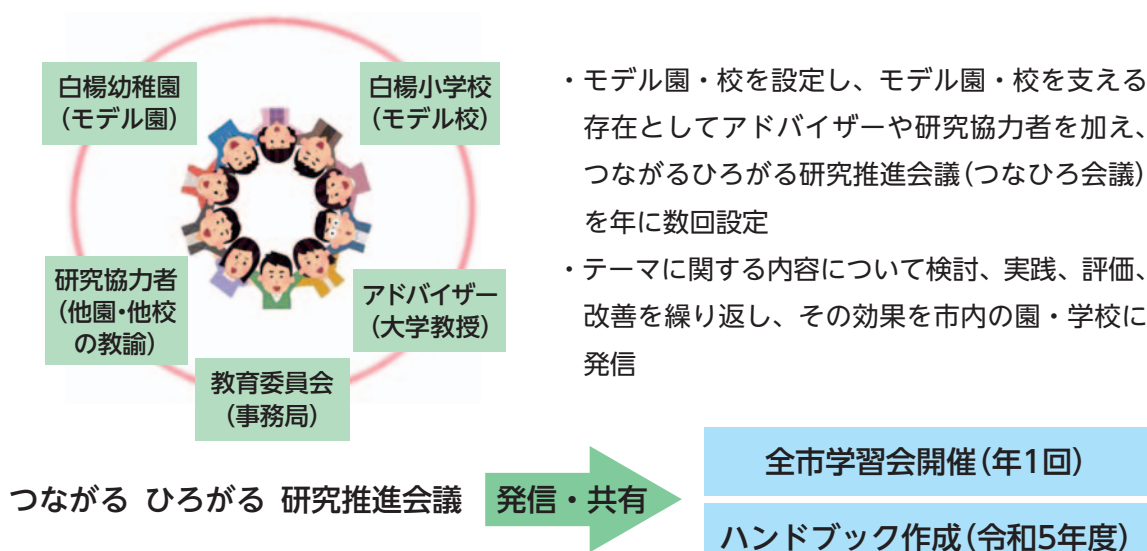
区幼保小連携推進協議会は浸透している一方、各園・校による実践は取組に差がありました。
なぜ連携・接続が大事なのか、子どもたちに育つものは何か、この取組による教育的効果などが分かることにより、主体的な各園・校の実践につながり、充実すると考え、令和3年度から幼保小連携モデル事業を開始しました。

テーマ

発達や学びの連続性を踏まえた幼保小の連携・接続の望ましい在り方を研究



方法



内容

幼児・児童の交流活動 5・5デー (5歳児と5年生) や1年生の生活科において、 子どもの相互の育ちや学び を支援 10 12 20 ページ	教師同士の学び合い 互いの子どもの発達の段階 や教育内容を理解し、自園・ 自校の実践力を向上 9 13 ページ	連携・接続のための体制 互いのカリキュラムへの位 置づけや担当者を明確にし て確実に連携・接続の取組 を推進 11 16 ページ
--	--	--

令和3年 コロナ禍でのモデル事業スタート

困った!

モデル園とモデル校はもともと「5・5デー」という5歳児と5年生の交流活動を行っていましたが、コロナ禍では直接子ども同士が関わる活動を進めることが難しくなりました。

そこで考えたのは、**子どもの育ち、教職員の学びのためにできることを工夫しよう!**でした。

5・5デー(5歳児と5年生の交流活動)



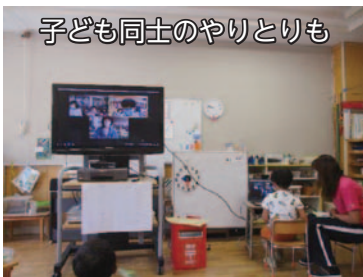
打合せも



お手紙交換はできそう!



5年生
カッコいい!!



子ども同士のやりとりも

オンラインなら顔を見合える!

お兄さんが僕の好きな
クワガタの
折り紙をくれた!

ぼくたちのよさこいを見
てね!

よさこいを見合いたい!



教師同士の学び合いー1年生の授業を参観しよう

幼稚園教諭が感じた
授業のポイント

子どもたちに育みたい力

教師が指導で大切にしていること



幼小の**共通点**が多いね!

- ・粘り強く取り組むこと
- ・「できた!」という思いをもてること
- ・困ったことを言えること
- ・やってみようという気持ちをもつこと

振り返り・改善に向けて

- ・育てたい子どもの姿を共有し、指導を考える
- ・互いの教育をもっと知ると良い
- ・計画的に予定を入れない!



- ★幼児・児童の交流には**共通指導案**を活用しよう
- ★子どもの姿(発達の段階)は**直接見て生で感じよう**
- ★職員間の引継や共有のために**次年度計画は前年度末に見通しをもとう**



アドバイザーより

- ▶交流活動だけが幼保小連携・接続の取組とは限りません。
- ▶「コロナ禍」の工夫としてだけでなく、これから連携・接続の取組を考えたい園や学校、隣接する場所に園や学校がないところでも参考になりますね。